

【教育目標】 英知の風かおり 友愛の情ふかく 精励の志つねに



# 中野だより

平成30年 6月25日 発行 第3号

発行者:中野区立中野中学校

## 「えらい」ということ

前回の「中野だより」第2号で5月のGWに帰省した時のことを取り上げた。恥ずかしい話だが、帰京する当日、実家からもらった米を車のトランクに運ぼうと持ち上げた際、腰を痛めてしまった。以後3～4日間は立ったり、座ったり、起き上がったりに腰に痛みが走り、えらい思いをした。

「えらい思い」とは、ここでは「苦労」と解されるが、「えらい」という言葉はいろんな意味をもっている。例えば「駅前はえらい人だかりだ」「えらいことになった」と言えば、「大変な」という意味。また、「えらく遊んだ」は「とても」とか「非常に」と解される。さらに、「あの人は、会社ではえらい人だ」と言えば、「高い地位・役職にある」ことを指している。

そして、「君は誰も見てなくてもしっかり掃除をしてえらいね」と言ったら、「立派」ということである。もしかしたら、「立派」という意味で使われる「えらい」が最も多いかもしれない。

6月17日(日)、中野区中学校バレーボール選手権大会最終日。

本校バレーボール部は予選リーグを通過して決勝トーナメントに進出。キレの良いサーブ、粘り強いレシーブ、そして豪快なアタックでライバルチームに競り勝ち、決勝戦に進出した。

決勝戦の相手は、優勝候補のG学園中学校。技術、体力、層の厚さのどれをとっても際立って優れている。ある顧問の、「中野の中学校はG学園と試合することが憧れなんです」という話が、G学園の強さを物語っている。

決勝戦の立ち上がり、本校バレー部は見事なアタックで先行したが、G学園の高く厚い壁を破ることはできなかった。しかし、閉会式で授与された準優勝の賞状と銀メダルが誇らしかった。

閉会式の講評で、「勝ったからと言ってえらいわけではない」という話があった。勝ったチームを非難しての話ではない。次の大会に進出する上位4チームは、中野の代表として可能な限り技術・精神・チーム力を磨き、敗れたチームのためにも勝利を重ねてほしい、という趣旨の話だった。

敗れたチームの中には、優勝はできなくても、礼儀正しく、マナーを守り、常に一生懸命にプレーし、他が学ぶべき点の多いチームがあった。そういうチームこそ本当の「えらい」チームなのかもしれない。



中庭に咲く紫陽花